

新町住宅地は、長い時間をかけて分譲され、また土地を購入しても直ぐには住宅を建てない場合もあったので、所々に空地が残っている状態がつつきました。

(出典等は、4面に記載)

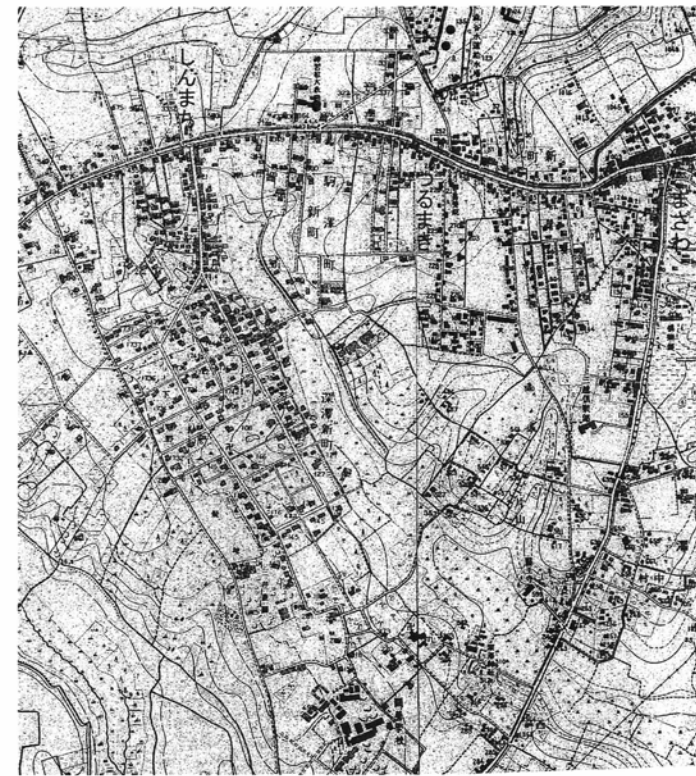
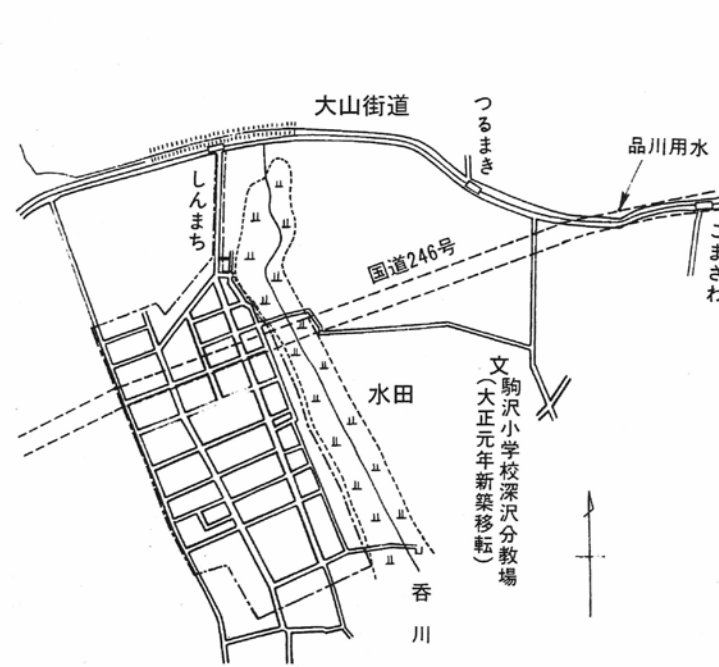
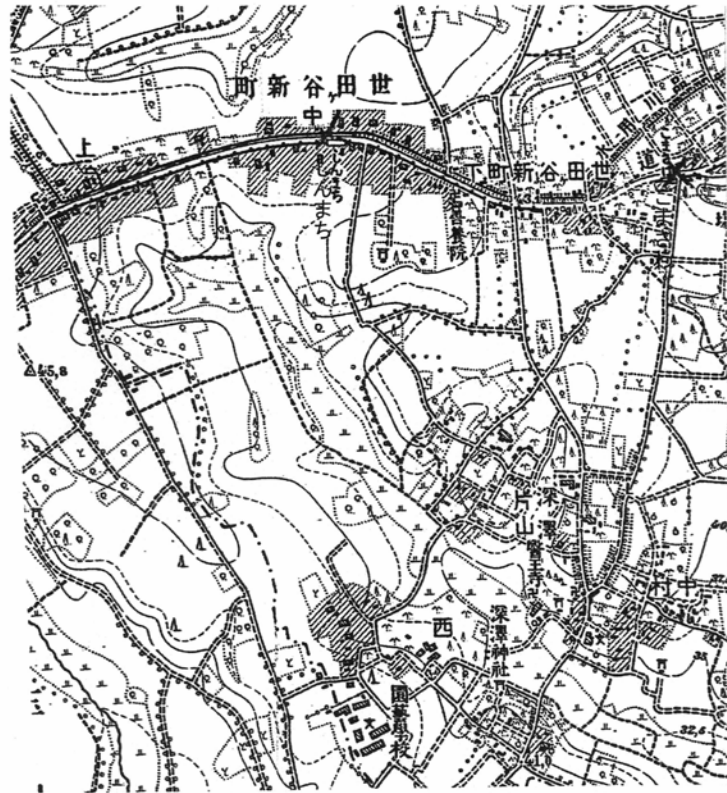


図-2 1909(明治42)年 (停留所名を加筆)
新町住宅地開発直前の様子。
玉川電車停留所は、しんまち(新町)とこまざわ(駒沢)。
図の中央下に1908年創立の園芸学校(現在の東京都立園芸高校)が見える。

図-3 新町住宅地の区画図(造成当時の略図)
停留所は、しんまち、つまき、こまざわ。
図-2と比べて「しんまち」が西寄りの住宅地入口に移っており、それとともに「つまき」が設けられたようである。
呑川の両岸は、水田だった。
駒沢小学校深沢分教場は、現在の深沢小学校。

図-4 1929(昭和4)年 (停留所名を加筆)
停留所は、しんまち、つまき、こまざわ。
大山街道沿いに民家が増えてきた。
水田の中を流れていた呑川の位置は、読みとれない。

図-5 1937(昭和12)年 (停留所名と呑川を加筆)
停留所名が「さくらしんまち」(桜新町)に変わっている。(1932年に変更)位置は、図-4と同じ。
呑川が改修され、呑川東側と大山街道北側で区画整理事業が進められている。
図-4と比べて、新町住宅地内の建て込み状況の違いははっきりしない。

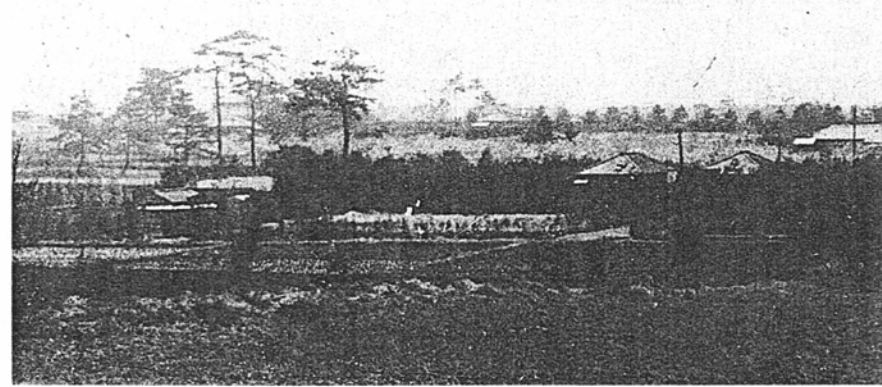
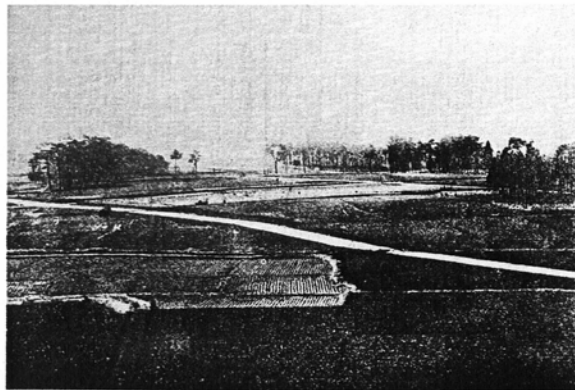


図-6(上)、図-7(下) 造成の様子

図-8 「田園より新町東大通り東端を望む」
分譲後数年の間に発行されたと思われる絵葉書の中の写真。
既に住宅が建っている様子が見える。

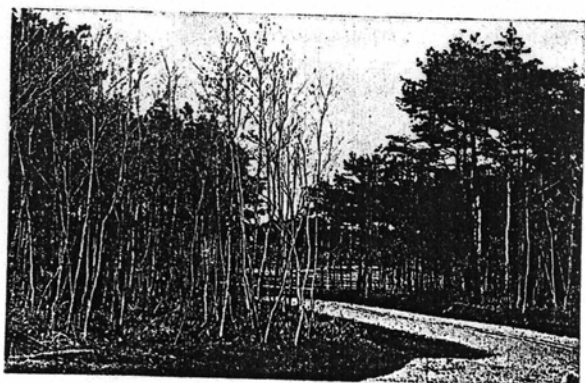


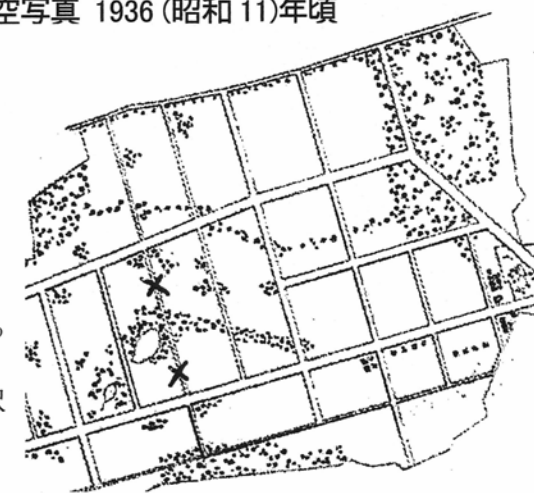
図-9 「新町西大通り附近」

図-11 販売パンフレット中の区画図(一部)
図-10に対応させて表示

航空写真からは、桜並木と共に区画図に見られる樹木・樹林が残されていたのがわかる。
中央左の緑豊かな大きな敷地は、現在は深沢八丁目無原罪特別保護区に指定されている。
×印をつけた道路は、設けられなかった。



図-10 航空写真 1936(昭和11)年頃



→ 至桜新町停留所

→ 至桜新町停留所

新町住宅地 100年の歩み
—終戦(1945年)の頃まで—

100年の歴史の最初の約1/3、1913年(分譲開始)から終戦までの32年間、新町住宅地の姿は、穏やかに変化したようです。

住宅には庭木や生垣があしらわれ、桜並木が成長したので、緑は豊かになっていきました。

「東京の軽井沢」という広告も大げさではなかったようです。

桜並木にちなんで停留所名が新町から桜新町に変わり、次第に商店も増えていきました。

周辺では、区画整理事業が進められ宅地化が進みました。

同時に、改修された呑川の両岸に桜が植えられました。